

鶴岡市における「第4回ことばの調査」について

■日本語の将来予測にむけて

国立国語研究所は、昭和23（1948）年に設立されました。翌年の昭和24（1949）年以降、日本における言語生活の実態を捉えることを目的に、日本の各地で言語調査を実施してきました。



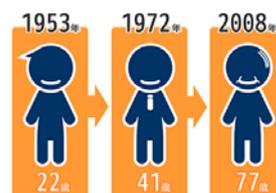
それらのなかで一番重要なのが、山形県鶴岡市で、昭和25（1950）年、昭和46（1971）年、平成3（1991）年の3回にわたって統計数理研究所と共同でおこなった調査です。第1回の調査から現在まで約60年が経過し、その間、社会は大きく変化しました。11月にスタートする第4回調査は、地域社会のことばの使い方がどのように変化したかを探るとともに、日本語の将来を予測するための最先端の科学研究を推進していきます。

国立国語研究所と統計数理研究所による言語調査研究の方法

- ・ 言語生活の実態把握とことばの変化についての調査を実施。
- ・ 調査にご協力いただく市民は、科学的な方法（ランダムサンプリング）によって、住民基本台帳から無作為に選出（ランダムサンプリング調査）。=>



- ・ さらに、過去の調査にご協力いただいた市民に、再度ご協力いただく調査（パネル調査）も並行して実施。=>
- ・ 第4回鶴岡調査を実施すれば、ランダムサンプリング調査とパネル調査の2つを組合せた調査研究としては、米国の研究を抜いて世界で一番長い期間をカバーする最先端の研究になる。



以上

<照会先>

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 横山【責任者】、阿部【担当者】

電話：042-540-4300（代表）、Eメール：t-abe@ninjal.ac.jp（阿部宛て）